



社会福祉法人 岐阜県福祉事業団

岐阜県立 飛騨寿楽苑

令和3年1月4日発行 第69号

理念・・・お一人、おひとりの思いを大切に受け止めて



手仕事の喜び

食べる楽しみ

コロナ禍にあっても、
楽しみや喜びのある日常を

教える喜び

経験する楽しさ

- 特集
ユニットの取り組み
「暮らしに彩りを
〜ハープのある暮らし〜」
- 百歳のお祝い
- 避難訓練・職員研修報告
- 職員紹介他



苑長 中島 恭久

**新年明けまして
おめでとーございませう**

年頭に当たり謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は「新型コロナウイルス感染症」が大流行、その影響で面会・行事など自粛、中止を余儀なくされる中、皆様の多大なるご理解とご協力により「感染者ゼロ」であったことから感謝申し上げます。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症が収束したわけではありません。

職員一同、引き続き入居者様、利用者様が安心して生活、利用できるよう感染防止意識を更に向上させこの難局を乗り切る覚悟しておりますので、今後とも皆様のご支援を賜りますよう、よろしく申し上げます。

本年が皆様にとって良い年となります事を祈念して新年のご挨拶とさせていただきます。

令和3年 元旦

飛騨寿楽苑の スタッフ紹介

宮本もも子さん

プロフィール

H22、4月飛騨寿楽苑正規職員になる。その後結婚妊娠H25、7月産休に入り、2人の娘さんを出産する。育児休暇3年取得しH30、4月に仕事復帰した。



趣味

カラオケ、ドライブ。最近は行けないので通勤の車内がカラオケBOXです。

休日の過ごし方

シフト制で土日も仕事なので、子どもたちとの時間を大切にしています。今年はコロナ禍でどこへも連れて行ってあげられなかったのが、一緒に料理をしたり、お家で子どもと楽しむことをしています。ひとりの時間は、好きなドラマを観たり、好きな音楽を聴いたり、のんびり過ごしています。マスク作りで少しミシンにも目覚めました!!

育児との両立で配慮されているところ

育児休暇が3年取得でき、育児に専念して子どもの成長を見届けられたところは有り難かったです。時短勤務や就学前の子どもがいる場合は夜勤が免除されるなどの規定がある為、現在はデイサービスセンターで勤務させてもらっています。



令和3年度 介護職員募集

介護職員時給

- ・有資格者(介護職員初任者研修など) 970円～
- ・無資格者、未経験者 930円～

諸手当

- ・特別処遇改善手当(年1回支給)
- ・賞与(2回/年)、通勤手当
- ・夜勤手当(5,000円/回)
- ・処遇改善手当(最高16,600円/月)
- ・介護休暇や産前産後休暇、育児休暇
- ・誕生日休暇、退職金手当有、
- ・福利厚生事業「ソウェルクラブ」加入

※正規職員採用等については相談に応じます。
担当：次長宮本まで



布きれ・古着等をお譲りください

介護現場で重宝する消耗品。それは「布きれ」です。もし、捨ててしまうような布きれ(綿製品)がありましたら、ゴミとして処分する前に当苑にお譲りください。よろしくお願いいたします。

その方が思うように暮らし、悔いのない時間を過ごすために私たちができること
～グループホーム「輪」で最期をむかえる～



社会福祉法人 全国社会福祉事業団協議会
令和2年度第43回実践報告・実務研究論文において飛騨寿楽苑グループホーム輪管理者丸山奈美他職員一同が**優秀賞**を受賞しました。

県立飛騨寿楽苑 お問い合わせ

TEL(0577)73-3804 FAX(0577)73-2246 HP <http://gifu-fukushi.jp/hidajuraku/>
Mail: hidajuraku@gifu-fukushi.jp 広報担当：田谷・池尾・新家・松原・野村



重山 花子様



中村 房子様



三嶋 志づ様



田中 良江様

百寿

おめでとうございます

暮らしに彩りを ~ハーブのある暮らし~



わたしたち式之町1丁目では今年度「ハーブ」を取り入れたケアに取り組んでいます。きっかけは異食をする方への対応でした。認知症になると、食べられないもの、そうでないものの区別が難しくなることがあります。異食はリスクとして「ひやりはっと※」にあげ、対応策を考えていきます。しかし、大抵の場合はこちらを考慮して「リスク」となるものは取り除く「飾るの」はやめておこうと。しかし、わたしたちは花や観葉植物を部署内に飾ることをあきらめたくありませんでした。



排泄困難となるとすぐに下剤、浣腸。眠れないとなると睡眠導入剤服用、さらに増量。できれば、無理をせず、負担は少なく、自然でありたい。



私たちの暮らしの基本は、食べて出して眠ることです。その暮らしの中に自然のものを取り入れることに意義があるのではないだろうか、と考えました。

ある時、職員が雑談の中でこんなことを言いました。「食べられないものにするしかないですね」。その逆転の発想こそが、まさに現在の部署の取り組みへと導いてくれました。

ハーブに関する色々な文献を読むうちに、試す価値は十分あるように感じました。種を植えて、手をかけて苗を育て、収穫したものを干して乾燥させる。入居者の方も職員も皆がとても楽しそうで、それだけでも暮らしが何色にも彩られているように見えるから不思議です。収穫したハーブは、毎朝のデトックスウォーターやお茶に、また料理の薬味として。さらに入浴時のハーブバスや、眠る前のミルクティー、そして香りでもリラックスできるようなお部屋に飾るなど、様々なことに活用しています。効果としては、下剤の使用が減ったり、良く眠れるようになった方もあります。これからも彩りある暮らしのお手伝いをしていきたいと思えます。

(中川由紀子)

排泄ケアオンライン研修

コロナ禍の中、従来の研修が行えない事もありましたがオンラインでの研修を進めています。昨年も研修をして頂いたDASケアLABの大関美里先生に今年もオンラインでの研修をお願いしました。より快適な排泄ケアに向けて心理面、技術面を向上させることはとても大切な事です。今年も様々な技術や普段疑問に感じていることを教えて頂きました。



災害時避難訓練

昨年は大雨による被害が多くありました。飛騨寿楽苑でも毎年災害時・火災時の避難訓練を行っています。いつ起こるか予想がつかない災害時にも入居者様の安全を守る為に定期的な訓練を重ねることで、いざという時も冷静に避難経路や誘導等の対応ができるようにしています。



①②③バリエーションいろいろデトックスウォーター ④刈り取り作業は利用者の方にもお手伝いいただきました ⑤種から育てたものも ⑥苗から育てたもの。どれも立派に育ちました ⑦コーンスープとハーブ ⑧どくだみの葉は乾燥してお茶に ⑨お豆腐の上に乾燥バジルをちらして ⑩ピザの上にルッコラをたっぷりのせて ※「ひやりはっと」…事故を未然に防ぐための“気づき”(ひやりとした、ハッとした)を共有する報告書